

第34回技術懇話会「工場長養成塾ゼミで伝えたいこと」開催

第34回技術懇話会を、平成28年3月7日(月)に大学会館にて開催しました。今回は、話題提供の後、初めての試みとしてパネルディスカッションを行いました。ご参加できなかった方のために、講演の要旨をご案内いたします。興味をもたれた方は、お気軽に研究協力会(E-Mail:kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp)までお問合せ下さい。

「工場長養成塾ゼミで伝えたいこと」

パネルリーダー 仁科 健 教授



品質管理ゼミの担当です。品質管理とはものづくりにおけるばらつきへの挑戦であることを繰り返し説明しています。どのようなばらつきに着目し、ばらつき減らしの方法にはどのような考え方があるのかなどを、できるだけ実例を交えながら解説しています。私自身も工場長養成塾に参加して認識できたことがあります。それは「2Sと見える化の文化」「責任外の原因への対応」です。これらは日本のものづくりの優位性につながることはないでしょうか。

塾長として一言。工場長養成塾は来期で第10回を迎えます。リピータ企業の多さから一定の評価を得ているものと認識しています。研究協力会会員におかれましては参加をご検討いただければと思います。

「工場長養成塾の講義から見た現実場の問題点と問題解決法について」

荒川 雅裕 教授



本講演では、工場長養成塾における「生産管理」の講義や塾生からのコメントや議論を通して見えてきた生産現場管理者の教育の問題点とその対策について報告をしました。工場長養成塾に参加する企業の多くは中小企業であり、多品種少量、変品種変量を短納期で生産することが要求されているため、既存工場を継続的かつ柔軟に改良し、運用する能力が必要です。資金に対しても大企業に比べて劣るため、各種IT技術による工場の管理技法の導入は困難です。また、導入しても継続的に運用していくには現場管理者が工場の分析、改善する考え方や技術が必要です。本講演では、工場長養成塾の参加企業を中心に産学のネットワークを構築し、情報共有やシステムの共有による対策案を紹介しました。

「気づきの心理ゼミ」で伝えたいこと:2つの「気づき」と、問題解決、ストレス、コミュニケーション、リーダーシップ

鷲見 克典 教授



「気づきの心理ゼミ」で「気づき」そのものの心理を扱うことはほとんどありません。ここで言う「気づき」には2つの意味を含んでいます。1つは、工場長の皆様が必要とされるであろう心理にまつわるいくつかのテーマへの「気づき」です。主なテーマは、問題解決、ストレス、コミュニケーション、リーダーシップです。さらに、創造性、人事評価、メンタルヘルス全般、部下との関係、性格、やる気、従業員満足、文化差に関する理解を盛り込んでいます。もう1つは、そうしたテーマには技術系のお仕事で必要とされ、習熟されているアプローチ(知識・スキル)とは趣を異にしたアプローチが求められることへの「気づき」です。このアプローチはマネジメントに必須のものです。

ヒューマンエラーゼミを通して伝えたいこと、気づいたこと

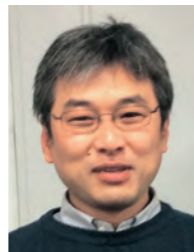
神田 幸治 准教授



ヒューマンエラーゼミでは、工場での不具合や不良品発生などの原因の一つであるヒューマンエラー(人間のミス)について学びます。塾生はヒューマンエラーの考え方や発生メカニズムを座学により理解し、エラー対策のポイントを事例検討を通じたグループワークにより修得します。ゼミでは、人間はエラーをおかす存在であること、エラーが事故や不具合に至らぬよう作業や環境を改善すべきであること、抽象的ではなく具体的な対策を現場の人間自らが考え実践する必要があることを、塾生に伝えています。座学では受け身にならないよう、実践例の紹介は最小限にとどめ、あえて基礎理論の解説や重要性を、様々なデモンストレーションを用いて紹介しています。現場の人間にとって敬遠されがちな基礎理論が現場には大変重要であることについて、ゼミに参加することで塾生自らが気づきを得るとともに、私自身もあらためて気づかされています。

「イノベーション・マネジメントゼミ」を担当して

徳丸 宜穂 准教授



優れたコンセプト・デザインを持った製品・サービスをよく実現するためには、強い基盤技術力と強い現場が必要であり、これらを維持していくことは、各企業と日本経済が直面する最重要課題の一つである。そのためには、基盤技術力を担う各社が革新的対応を続ける必要がある。長期雇用を基礎とする日本企業の場合、そのキーパーソンは、現場も全社的状況もよく知る、工場長などのミドル人材であり、彼らが生み出す創発戦略が重要な意味を持つ。そのために必要となる俯瞰的な思考技法を演習形式で習得することが、私が担当している「イノベーション・マネジメントゼミ」の目標である。

第3回先端技術企業視察会を実施 ～訪問先 浜松ホトニクス株式会社～

本年度の視察会は、平成27年11月12日(木)、浜松市に本社を構える浜松ホトニクス株式会社を訪問させて頂き、磐田市の電子管事業部豊岡製作所と浜松市の中央研究所を見学すると共に、中央研究所の常務取締役 原 勉所長のご講演を戴いた。

原所長からは、創業が浜松テレビ株式会社といい、日本のテレビの父として有名な高柳健次郎氏の流れを引く研究・開発型の会社として1953年創立、光電管の製造からスタートし、引き続いて光電子倍增管・撮像管・可視光導電素子へと1950年代に光電子部品の発売をされ、2002年の小柴昌俊先生のノーベル物理学賞、2015年の梶田隆章先生のノーベル物理学賞に連なるカミオカンデの光電子倍增管の製造でも有名になったとの話を戴き、光の研究と、それを基盤とした製品開発を通じて、光の本質を追及する企業精神のお話を戴きました。



原 勉所長のご講演

【会社概要】	創 立	1953年(昭和28年)9月29日
	資 本 金	349億円
	従 業 員	3,147名
	本 社	静岡県浜松市中区砂山325-6
拠 点	国内：18か所 海外：10か所	

各種イベントへの参画状況

●第15回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議

会 期：平成28年1月27日、1月28日、1月29日
場 所：東京ビッグサイト
内容・展示：4名の先生方のナノテク系研究内容をポスター展示する

●第13回多治見ビジネスフェア「き」業展

会 期：平成28年1月29日、30日
場 所：多治見市セラミックパークMINO イベントホール
内容・展示：地元金融機関はじめ岐阜県東濃・中濃地方、愛知県尾張・三河地方を中心とした商工会議所・商工会、その他諸団体とビジネスマッチングを図り、展示する

●中部地区 医療・バイオ系シーズ発表会(メディカルメッセと共催)

会 期：平成28年2月3日、4日
場 所：名古屋市吹上ホール
内容・展示：3名の先生方の医療系研究内容をプレゼンテーション、展示する

●愛銀ビジネス商談会

会 期：平成28年2月3日
場 所：名古屋国際会議場
内容・展示：販路拡大を希望の企業や仕入・外注先を求める企業に対して商談の場を提供。個別面談を希望する18社と名工大科学技術コーディネーターが対応し、研究テーマを展示する

●安城市ものづくりコンベンション2016

会 期：平成28年2月11日、12日
場 所：安城市体育館アリーナ
内容・展示：安城市産業界が持つ技術力・ノウハウを一堂に会する展示型マッチング商談会で商談・連携・雇用を目的とした、ものづくり専門の展示会、5名の先生方の研究を展示する